

CISPR B小委員会 WG1  
チャンウォン会議の結果について

TELEC 久保田文人

# CISPR B小委WG1チャンウォン会議の概要

日時 2014年6月4日(水)～6日(金)

場所 韓国チャンウォン(昌原)市 昌原コンベンションセンター

参加国 日本(8)、韓国(13)、ドイツ(7)、フランス(2)、オーストリア(2)、英国、  
オランダ、スイス、フィンランド、中国、IARU(国際アマチュア連盟)

## 今回会議の背景

WG1はB小委の担務のうち、CISPR11 (ISM装置の許容値及び測定法)の改訂を担当。毎年秋に開催するCISPR総会に併催する会議と、中間会議とがあり、チャンウォン会議は中間会議。CISPR11は2015年に第6.0版をリリースすべく改訂作業中。

## 審議概要

- ①CISPR11第6.0版の発行に向けた4件のCDV(投票用原案)について、投票結果を踏まえてFDIS(最終国際規格案)に進めるための審議が行われた。
- ②昨年9月に開催されたCISPRオタワ会議で我が国の提案により設置されることとなったパワエレ(電気自動車)用のワイヤレス電力伝送システムのタスクフォース(TF WPT)のキックオフ会合が行われ、リーダー(Convenor)にTELEC久保田が就任した。

# WG1チャンウォン会議の結果(1)

## 1. CISPR11の改訂

CISPR11第6.0版に向けた4つのCDVについて審議が行われた:

- ①現行第5.1版の全般的メンテナンス、
- ②1GHz～18GHzにおける放射妨害波の許容値の調整、
- ③20kVA以下のGCPCに対する妨害波の許容値、
- ④ 20kVA超のGCPCに対する妨害波の許容値。

GCPC: 太陽光発電系統連係パワーコンバータ

グループ2クラスA装置の距離3mの放射許容値の一部に10m許容値からの変換係数の適用間違いが指摘され、次回のB小委にて改めて審議し決定することとした。

今回決定されたGCPCのDC端子の許容値が太陽光発電システム以外のDC端子に適用されないように、GCPCの定義をエディトリアルに修正した。

結論としては、これまで承認されているものを含むCDVの5件を統合し、10月の法兰克福会議においてCISPR11第6.0版のFDISの最終版の審議を行うこととした。その後、11月にFDISを発行し、来年3月頃にIS(国際規格)発行となる見込み。

# WG1チャンウォン会議の結果(2)

## 2. ワイヤレス電力伝送に関する検討

(1) TFの設立と久保田のConvenor就任を確認。

(2) TFメンバー18名を確認。内訳: TC69より参加(8)、WG1より(8+新規2)

チャンウォン会議に出席したのはそのうち13名。

(3) TFの所掌(ToR)を承認。さらに作業範囲に関しては、9kHz~150kHzの放射妨害波を含めるべきかどうかについて、改めて質問書を回付し決定することとした。また上限は1GHzに変更することとした。

(4) IEC/TC69(電気自動車)における審議状況に関し、欠席したTC69からのLiaison officerのSEW Mahlein氏に代わって、日産 塚原氏よりIEC61980-1の2ndCDVドラフト等を説明。1stCDVは大幅に改訂されているが、2ndCDVを回付するのか、直接FDISを回付するのか今後決定される。

(5) 日本よりWPTの測定データを寄与。WPT作業班にて紹介された測定データを取り纏めたITU-R/SG1/WP1Aへの寄書を、トヨタ野島氏より紹介。具体的な測定データの提出は初めてのため、わが国の活動に対して良い評価を得たと考えている。

# WG1チャンウォン会議の結果(3)

(6) 作業項目を次の2つに集約し、参加するメンバーを募った。

① 現行CISPR11の許容値及び測定法がWPTに適用可能かどうかを確認する

② TC69における試験方法の妥当性を確認する

メンバーは9月1日期限でメールベースで意見を提出し、Convenorが取り纏めを行う。  
作業はメールとCollaboration Toolsを活用し審議を促進する。

## 3. 今後の予定

次回の会合は、2014年10月にフランクフルト(ドイツ)で開催する予定。TF WPTはWG1会合の中で開催する。